

辺野古キャンプシュワブゲート前、 県民の反対の声を機動隊は“ごぼう抜き”

キャンプシュワブのゲートから午前9時30分、多くのダンプが辺野古新基地建設の為の資材を搬入。ゲート前の歩道に座っている市民・県民に対し、“ごぼう抜きの規制”を今日も沖縄県警の機動隊は強引に行いました。オスプレイがキャンプシュワブから飛び立っていきました。(4月上旬の様子)

ゲート前に集まる市民からは現状への強い不満と憤りが発せられました。オスプレイのヘリパットは近くの国立沖縄高専の近くにもあるとのこと。「米軍は沖縄の住民の生命や財産について何とも思っていないのでは・・・」と批判しました。「しかも国連の核兵器禁止条約に反対し参加すらしない政府しか持てない日本。沖縄の県民は県民自身の手で頑張っていく」と県民の熱い思いを訴えました。



埋立ての為の資材等の搬入は1日3回、9:00・12:00・15:00でした。

安次富さんは語りました。「イスラエルですら危ないので購入を拒んだオスプレイを17機も購入する日本」「1機100億円と言われていたが今では200億円もかかると言う。こんな大金は貧困と格差の状況におかれている人々の為に使うべき」と。

又、昨年のおスプレイの事故については「名護市への第一報では墜落だったのが次には不時着そして最後には不時着後に大破と説明を意図的に変えていく政府・マスコミのひどさ」を批判。そして「日本の警察は事故の捜査もせず米軍がボイスレコーダーを持っていったり証拠を隠滅する行為を守るために、その道をつくってあげている」とあまりのひどさを嘆きました。

更に、「木更津のおスプレイの整備拠点化。佐賀県民が反対しているのに佐賀に自衛隊が購入する17機のおスプレイを持っていこうとする。すでにオスプレイは低空飛行訓練を長野県・群馬県・新潟県で行っており、軽井沢の首長は防衛省に飛ぶなと請願している。これらのことからオスプレイの危険が全国に拡大していくことになる」と訴えました。

ゲート前の多くの市民からも発言がありました。

「オスプレイのAクラス(最悪のパターン)の事故率が3.26と非常に高いことが明らかになりました」と安全だと言う事の嘘を糾弾。

「日当のお金をもらって反対している。過激派が反対している。と嘘が流されている。嘘も100回言えば本当になってしまうのか?」「沖縄の大学生がおスプレイの体験搭乗をしているとのこと。建白書を持ってオール沖縄で反対している現状を果たして学生は知らないのだろうか?」と現状の課題も指摘されました。

沖縄の現状から“伊江島-高江-辺野古のトライアングルでの米軍機能強化”は単に米軍の戦略以上に新ガイドラインに基づく安倍政権の戦争遂行施策と一体のものであることが明らかに。与那国・宮古・石垣の自衛隊配備、岩国基地の機能強化(アジアの機能)、木更津のおスプレイ整備拠点、陸上総隊等の相互連携の中でより一段と高いレベルでの体制がつくられようとしています。

辺野古の新基地建設絶対反対! 木更津のおスプレイ整備拠点廃止!

千葉県議会議員ふじしろ政夫 047-445-9144